

2023年度秋季研究発表大会

8月31日(木)・9月1日(金)

山口大学 (山口県宇部市)



研究発表募集中 申し込み締め切り7月26日

後援:(予定)

宇部市
山口大学 工学部
山口県情報産業協会
一般社団法人宇部観光コンベンション協会
一般社団法人電子情報技術産業協会
一般社団法人情報サービス産業協会
一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会
一般財団法人日本科学技術連盟
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

協賛:(予定)

公益社団法人日本経営工学会
公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会
一般社団法人日本品質管理学会
日本信頼性学会
一般社団法人経営情報学会
一般社団法人日本設備管理学会
研究・イノベーション学会
公益社団法人士木学会
一般社団法人電気学会
一般社団法人日本機械学会
一般社団法人電子情報通信学会
公益社団法人精密工学会
日本ファンクションポイントユーザ会



IPMA JAPAN

international project management association

2023年度秋季研究発表大会オフィシャルツアーについては、大会ホームページをご覧ください。

■大会概要 (対面形式)

日程 2023年8月31日(木)～9月1日(金)

会場 山口大学 常盤キャンパス

■参加費	正会員		学生会員		非会員	
	早割	通常	発表者	非発表者	早割	通常
研究発表大会(8/31-9/1)	15,000円	17,000円	無料*1	5,000円	20,000円	25,000円

法人会員は一口あたり3名まで正会員料金で参加可能。8月7日までお支払いの場合には早割り価格で参加いただけます。支払は、クレジットカード払い(VISA, MasterCard, JCB), 請求書払いのいずれかの方法となります。お支払後の返金はできませんのでご了承ください。なお当日欠席される場合でも参加費はお支払いいただきます。また出席者の交代は一切ご遠慮ください。*1「学生会員」かつ「発表者(第一著者)」に限ります。

■キーノート



「有限の鉱業から無限の工業へ」

高瀬 太氏
UBE株式会社 上席執行役員



「銀行基幹系システムの安定稼働に向けた取り組みについて」

米井 公治氏
株式会社みずほフィナンシャルグループ
グループCIO
株式会社みずほ銀行 副頭取執行役員
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社
取締役



「地方大学発ベンチャー企業が植物相手に行うプロジェクト」

園山 芳充氏
株式会社アグリライト研究所
代表取締役

■スペシャルレクチャー

「田舎を離れる子供達に知ってほしい故郷のもののづくり」

永山 貴博氏
株式会社永山本家酒造場 代表取締役

■問い合わせ先 spm_conference@spm.or.jp お問い合わせの前にFAQをご覧ください。

大会公式ウェブサイト < <https://www.spm.or.jp/committee/2023autumn/> >

2023年度秋季研究発表大会 キーノート概要

■キーノート1 8月31日 10:00-11:00

※時間は変更になることがあります

「有限の鉱業から無限の工業へ」 UBE株式会社 上席執行役員 高瀬 太氏

当社の歴史は19世紀末匿名組合組織沖ノ山炭鉱の創業から始まります。自然の恵みである石炭によって得た利益を地域へ還元し共に成長していく共存同栄の考えは、当社の事業形態、経営理念の原型となっています。
20世紀に入り転換期が訪れます。有限の石炭が枯渇した後も地域の繁栄が維持するようにと、石炭採掘によって蓄えた技術を生かし工業へ事業を展開。機械、セメント、化学と事業を拡大し、1942年には宇部興産株式会社を設立しました。
そして現在、社会全体でカーボンニュートラルの実現に向け取組む中で、当社はUBE株式会社として地球環境問題解決に挑む化学の会社へと舵を切りました。創業当初から引き継がれる環境変化に即した自己変革のマインドで、地球環境と人々の健康、そして豊かな未来社会に貢献していきます。



■キーノート2 9月1日 10:00-11:00

「銀行基幹系システムの安定稼働に向けた取組みについて」 株式会社みずほフィナンシャルグループ グループCIO 株式会社みずほ銀行 副頭取執行役員 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 取締役 米井 公治氏

オープン基盤・ハブアンドスポークの採用、本格的なSOAを導入した銀行基幹系システムの再構築は、大規模ITプロジェクト推進に関するマネジメントについて多くの気づきがありました。
さて、今回は、その後の安定稼働に向けての取り組みをご紹介します。
ミッションクリティカルな業務、新しいシステム構造に相応しい対策を改善計画として立案・実施して参りました。
各種点検、障害発生時の対応力の強化を行い、特に対応品質向上（安定稼働）の観点でのシステム開発部門とユーザ企画部門の連携強化など、具体的な取組内容についてもご紹介できればと思います。
安定稼働は、守るものでなく、作り出すものであるという考えもあり、対策を継続する必要があります。同じ悩みを持つ皆様と意見交換できれば幸いです。



株式会社みずほ銀行 IT・システム企画部/IT基盤・プロジェクト統括部副部長 奥山 徳彦氏

■キーノート3 9月1日 13:20-14:20

「地方大学発ベンチャー企業が植物相手に行うプロジェクト」 株式会社アグリライト研究所 代表取締役 園山 芳充氏

植物とヒトの関係は非常に古くから存在しており「食」「環境」「繊維」「健康」などの領域で産業的な利用が行われています。
当社は山口大学農学部発ベンチャー企業として2011年に起業し、大学の研究成果の事業化や、主に異業種民間企業依頼の「農業を含む植物利用に向けた資材や技術開発のための論文調査や栽培比較試験を実施する研究」を行っています。
これまで「光、植物工場、乾燥、福祉、高校生、おいしさ、海・アマモ、遺伝子、ドローン、宇宙・衛星」と、多種多様なものさしや手段を用いて「当社の植物を対象とするプロジェクト」を実施してきましたが、本講演では、個性ある植物相手に目標達成する「都度新規構築する手順と管理手法」の事例を示しながら、ヒトと最も密接にある「植物」理解へのプロセスを共有します。



■論文募集要項

研究発表大会の発表者(第一著者)は正会員または学生会員であること。発表テーマ等詳細情報は随時大会公式ウェブサイト < <https://www.spm.or.jp/committee/2023autumn/> > に掲載予定です。

入会申し込み <https://spm.or.jp/admission/guide/>

応募方法 学会ウェブサイト <https://spm.or.jp/> から申し込み (2023年7月26日まで)

全ての発表者の方は、A区分又はB区分から1つを選択してください。学生会員が第一著者の場合は、学生表彰に応募するか否かを選択して下さい。学生表彰応募者は、表彰式(8月31日)に参加する必要があります。

・発表のみ(A区分): 2~15ページの原稿

・学会誌への投稿を兼ねる発表(B区分): 6~15ページの原稿

B区分で発表申込をすると、投稿された論文はそのまま論文審査・編集委員会による正式論文としての査読に回されます(再提出の機会はありません)。審査完了前に同じ内容の論文を他学会に投稿したり、他所で発表したりすると「二重投稿」と呼ばれる重大な違反行為になりますので注意してください。

■論文提出

論文投稿システムによる提出。フルペーパー8月7日締め切り(以降は編集不可)